

人間らしく働くための2011 宮崎宣言

私たちは、2011年11月5、6日の両日宮崎市において、「第22回人間らしく働くための九州セミナー」を開催し、九州・沖縄をはじめ600名の参加者を得て大きな成功をおさめました。

2011年3月11日、東日本を襲った地震と津波による東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。そして最悪の人災をもたらした福島原発事故は今もって出口が見えない状況が続いています。いま、全国民挙げて懸命に被災地の復旧・復興にあたっていますが、今後数10年と長期に及ぶ活動の継続が求められています。

また、宮崎でも昨年来、口蹄疫や鳥インフルエンザの拡大、新燃岳の噴火と県民全体の生活に大きな影響を及ぼしました。

今回のセミナーでは二日目に特別企画として、大災害の中で働くひとびとの健康をどの様にするかということを討議しました。

初日に行なった、山野良一さんの記念講演「この国の貧困と子どもたちの未来」では、日本の子どもの貧困をどのように捉えたらよいのか。「卒業クライシス」という社会問題、子どもの貧困解決に向けての視点など、多くのことを学びました。

記念講演を受けてのパネルディスカッションは、子どもの貧困の現状と背景を討論し、貧困をなくしていくためには私たち大人の働き方を変えて行くことが重要であることがわかりました。

九州・沖縄各地から寄せられた報告・レポートは91題と、働く人々の健康を守る活動の広がりを反映したものとなりました。

開催地の宮崎現地実行委員会の学習を基本としたセミナー準備活動も貴重な成果です。毎回100名の参加で「子どもの貧困」「若者の雇用」「職場のメンタルヘルス」について中身を深め、また、ハローワーク内での健康相談活動を行うなど、働くひとびとの健康問題に取り組む運動の輪を広げてきました。「学び・調査し・行動する」一貫した活動である「セミナー運動」の新たな一ページを築いたものと確信しています。

第20回熊本記念大会で宣言した「熊本宣言2009」では、労働者には健康で安全に働く権利があることを高らかに宣言し、労働時間・働き方の規制、全ての職場での労働安全衛生体制の確立、労災補償体制の充実・病気休暇制度の確立を求めています。この熊本宣言を実効あるものとするために、今回のセミナーで学びあった知識と、語り合った情熱で、職場・地域での活動を飛躍させ、人間らしく働き、暮らせる職場・社会の実現を目指して、参加者一人ひとりが取り組み、来年の長崎セミナーにその成果を持ち寄ることを誓い、セミナー宣言とします。

2011年11月6日

第22回人間らしく働くための九州セミナーin 宮崎